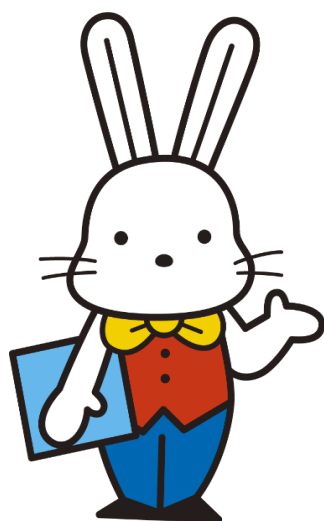


地域の活動をご紹介します。

1	日向のよりどころ（松川地区）	3
2	渡利春日ふれあい会（渡利地区）	3
3	障がいを持つ方が果樹農家さんのサポーターとして活躍しました！（吾妻地区）	4
4	地域共生社会の実現に向けた「移動支援」の取り組み（吾妻地区）	4
5	和気あいあいご長寿サロン（飯坂地区）	5
6	就労支援B型つぼみでのボランティア活動（飯坂地区）	5
7	バリアフリーの取り組みについて	6
8	大波地区の様子について（大波地区）	6
9	「孤立死を減らしたい！」という地域住民の思いで届くお弁当（飯野地区）	7
10	新型コロナウイルスのピンチをチャンスに！オール立子山で健康づくりに挑戦！！（立子山地区）	7
11	主任児童委員の活動をご紹介します！	8
12	主任児童委員の方にお話を伺いました。	8
13	信陵地区のラジオ体操（信陵地区）	9
14	笹谷小学校生徒下校時の安全パトロール（信陵地区）	9
15	ひとりの困りごとは我がこと！地域での支え合い活動（岡部地区）	10
16	コロナに負けず明るい笑顔（信夫地区）	10
17	地域の情報を掘り起こし、共有する（吾妻地区）	11
18	高齢者のこんな異変に気付いたら…（中央・清水地区）	11



1 日向のよりどころ 【活動名：ひまわり】

松川地区

きっかけは老人会の女性2名から始まり、メンバーのご主人が活動に市の助成制度があることを知り、さらにメンバーが増え女性15名程度 いきいきもりん体操が始まってからは老人会以外の人が加わりました。

主な活動は手芸で眼鏡ケース、ペンケース、マフラー、手袋ミトン、牛乳パックを材料にした椅子、お手玉などを作っています。

活動名（ひまわり）は原発の嫌な空気を洗浄したいという思いで活動の途中から名付け、集まる人数が少数（2、3人）の時も必ず活動を続けメンバー同士の安否確認も兼ねています。

町内会で集会所を使用する際（和室）足腰が痛いとの声が上がリ椅子を作ったり、作品は需要先（幼児や高齢者施設）に贈ったりもしています。

自分の畑で収穫したものを持ち寄りお茶会をして料理を教え合ったりと楽しみの拠り所となっています。

手作りでいろんなものを作っています。



●情報提供：松川地域包括支援センター ☎567-5840

2 渡利春日ふれあい会

渡利地区

町内に気軽に立ち寄れる場所を作り、仲間を作ること、お茶のみや自主活動で高齢者の孤立化を防ぐこと、お互いに気遣う気持ちを醸成すること、健康寿命を延ばすことを目的に、町内会に加入する65歳以上の男女約30名が合唱や講師による健康体操、レクリエーション、講話などを月一回行っています。

顔なじみと気軽に話し合うことで不安感、悩みの解消や福祉団体との交流による介護に対する相談や助言を受けたり、様々な会合へ誘いあったりしています。

新型コロナウイルスの影響で、茶和会の休止や換気、手指の消毒、ソーシャルディスタンスの確保、自主検温、マスクの着用など、対策をとりながら実施しています。



新型コロナウイルス感染症に気を付けて、楽しく活動しています。

●情報提供：渡利包括支援センター ☎515-3135

3 障がいを持つ方が果樹農家さんのサポーターとして活躍しました！

【活動名：農福連携の取り組み】

吾妻地区

福島地域福祉ネットワーク会議が主たる活動の拠点にしているのは福島市西部の土船区。フルーツラインが通る果樹園地帯です。

福島市の誇りでもある桃・梨・りんごの生産が盛んですが、高齢化や担い手不足に陥っています。

一方、障がい者福祉事業所では活動の範囲を広げたいと考えており、両者のマッチングを行って「農福連携」に取り組み始めました。

福祉施設の利用者さんは屋外での農作業に気持ちの良い汗を流し、身体を動かすことで精神的な落ち着きも得られています。

農家の方の指導で施設の方がいきいきと作業しています。



●情報提供 福島地域福祉ネットワーク会議 ☎593-1022 (社会福祉法人青葉学園内)

4 地域共生社会の実現に向けた「移動支援」の取り組み

【活動名：土船区ワンコイン移動支援（仮称）】

吾妻地区

土船区では数年のうちに65歳以上が50%を、うち75歳以上が25%を越えると想定されています。高齢独居者の増加、免許返納問題などで、移動の困難を抱える人が増えていきます。バス停までも歩けず、買い物や通院に困ることになり、引きこもりがちになると心身の健康を損なうことにもなりかねません。

そこで、昨年度から移動支援の学習会・ボランティア運転者講習会を開催。お互いの顔の見える関係性の中での助け合い活動として、まずは小さな範囲と負担での移動サポートに向けて協議を進めています。

利用者は助け合い活動の会費を納め、その中からガソリン代程度の実費相当額をボランティア運転者さんに支給。全体を福島地域福祉ネットワーク会議の活動とし、「移動支援専用の自動車保険」を負担する計画です。住民同士が力を出し合って地域福祉を向上させ、日頃からの備えとする。これを災害時要援護者の支援活動へと延伸して行ければと考えています。



地域の移動支援について検討を重ねています。

●情報提供 福島地域福祉ネットワーク会議 ☎593-1022 (社会福祉法人青葉学園内)

5 和気あいあいご長寿サロン

【活動名：ゆの ふれあいサロン】

飯坂地区

H21年から2か月に一度、偶数月に実施されている湯野地区社協主催のサロンの様子です。講話や体操、地域伝統の踊りなど参加者が楽しく過ごせるよう毎回工夫を凝らして開催されています。

各地区の民生委員とも協力し、普段あまり外出されないような方にも声をかけ、外出や地域との交流をする機会になるよう働きかけており、地域の高齢者の孤立を予防しています。

毎回30人程度の地域住民が参加しており、会場での参加者同士での交流も盛んです。

毎回参加している人が不参加であったりすると、心配して担当の民生委員に話を聞く様子なども見られており、住民相互の見守りにもつながっている地域を代表する活動です。



講話や体操など、楽しく参加できるように行事を工夫して実施しています。



●情報提供 飯坂東地域包括支援センター ☎542-8411

6 就労支援B型つぼみでのボランティア活動

【活動名：飯坂あひるっこ】

飯坂地区

毎月子育て広場を開催して18年、メンバーは高校の同級生やお隣さんなど様々なつながりの40～60代の女性8名で活動しています。つぼみでのボランティア活動は、代表者が公園でつぼみの利用者と出会ったことがきっかけで令和2年で3年目を迎えます。

「福島市からコロナ感染者を出さないように！」との思いを込め、飯坂学習センターの窓口にメンバー手作りの布マスク・簡易マスクを置き、マスクを忘れた利用者にも無償で配布しています。

また、つぼみの利用者の刺繍について、あひるっ子のメンバーが下書きを行うボランティアを行っていますが、障がい者の方の作業がしやすい方法を試行錯誤しながら活動しています。

代表者の方は、「障がいがある方でも、下準備さえしてあげれば出来ることはある。刺繍の様に細かい作業は障がいの方は特に苦手だが、作業を続けていくと出来る様になってくる。」と話されました。

今後は、「メンバーが無理せず、特性を持って楽しくボランティアを長く続けていければいいと思う」と話されました。

●情報提供 飯坂北地域包括支援センター ☎573-6077

7 バリアフリーの取り組みについて

バリアフリーの取り組みについて、毎年「ふれあい広場」を開催しています。

令和2年はコロナ禍における新しい生活様式での開催となりましたが、福祉団体、ボランティア団体の協力をいただき、盲導犬の実演、民生委員の活動紹介、障がい者施設製品の展示即売などを実施しました。

また、令和2年より「心のバリアフリー出前講座」が始まり、市内の小学校で点字の読み方や実際に点字器を使用してしおりを作成する「点字体験」や、簡単な挨拶や単語などを学ぶとともに耳の不自由な方へ接し方等について学習する「手話講座」を実施しました。

「点字体験」では、体験した生徒から「点字を打つことは難しいけど覚えてみたい」といった声が聞かれました。

「手話体験」では、手話や体を使った伝言ゲームでは、伝えていくうちに全く別の伝言となってしまう、大爆笑が起きるなど、楽しく手話を学んでいました。



実際に手話をやってみたよ！

●問い合わせ先 福島市社会福祉協議会 ☎533-8877

8 大波地区の様子について

福島市社会福祉審議会委員の佐藤秀雄さんに、地区の様子を伺いました。

地区にお住いの体の不自由な方について、サロン活動の際に、地区の体の不自由な方をお誘いしていますが、行きかえりの時に車を運転できる人が送り迎えをしています。

災害のあった際は自主防災組織や民生委員・児童委員が体の不自由な方を訪問して確認し、避難完了後は支所へ報告しています。落石等があった際の道路状況も支所へ連絡しています。

地域の夏祭りの際は、近隣の老人ホームの愛日荘園や障がい者福祉施設の大波学園の方をお招きしています。大波学園の夏祭りには大波地区の方が参加するなどお互いに交流を行っています。

東日本大震災と福島原子力発電所事故以降大波地区の人口は減少していましたが、今回他県から4名の方が大波地区に移り住むこととなりました。

営農を志すということで、地区総ぐるみでバックアップ体制を整え、地区に根付いてもらえるよう支援しています。



地区の施設の夏祭りのようす。施設の方と地域の方で楽しく交流しています。

9 「孤立死を減らしたい！」という地域住民の思いで届くお弁当

【活動名：飯野町高齢者配食サービス「ふれあいの会」】

飯野地区

平成12年ごろ、孤立死が何件かあったことがきっかけで、当時の飯野町と地域住民が協力し一人暮らし高齢者の見守り活動を行おうと町内の各種団体に呼び掛けて発足した取り組みです。

毎週金曜日の夕食として、希望する一人暮らし高齢者のお宅へお弁当を届けながら見守り活動を行います。

飯野地域福祉センターを拠点に、現在は4人の女性が事務局を担い、約60人のボランティアが交代で配達しています。1食500円のお弁当を町内の4店舗が準備し、利用者が250円、残りは社会福祉協議会飯野協議会が負担しています。

飯野町が福島市と合併した際に、「ふくしま市が行っている配食サービスがあるから」と、一度は解散した取り組みでしたが、利用者や配達ボランティアから「顔の見える関係が必要」との声が高まり、再結成された経緯があります。

お弁当をボランティアが手渡して届けています。



●情報提供 立子山・飯野地域包括支援センター ☎562-4110

10 新型コロナウイルスのピンチをチャンスに！オール立子山で健康づくりに挑戦！！

【活動名：たつごやま健康チャレンジシート】

立子山地区

立子山地区は65歳以上の方のいきいきももりん体操の取り組み率が21.1%と市内で最も高い地区です。平成30年からは「いきいきももりん体操代表者会議」として代表者が集まり、地域での交流会を開催して、通いの場の拡大、地域の健康づくりに取り組んでいます。

しかし、今年は新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどが活動自粛となり、地域からは「高齢化の進む立子山では、フレイルや認知症が進行する人が増えてしまうのではないかと心配の声が上がっていました。

そんな中、自宅に取り組める健康づくりについて、いきいきももりん体操の代表者と関係団体が話し合い、「ふくしま健民カード」の取り組みを活用し、立子山版として「たつごやま健康チャレンジシート」を作成。地域の目標として「運動」「減塩」「検温」に取り組み、自宅でシートにチェックしながら参加できる形となりました。いきいきももりん体操参加者がまずはモデルとして取り組み、今後は「オール立子山」の意識で地域全体に広がっていきます。



新型コロナウイルスに負けずに「運動」、「減塩」、「検温」に取り組めます。

●情報提供 立子山・飯野地域包括支援センター ☎562-4110

1 1 主任児童委員の活動を紹介します！

主任児童委員は、子どもたちが地域の中で健やかに育つよう見守るお手伝いをしています。
(現在、市内26方部で活動している主任児童委員は50名(欠員4名)おります。)

私たちは、担当地区をお持ちの民生委員・児童委員と連携し、情報を共有しながら関係機関につなぐ「パイプ役」の仕事をしています。

また、未就学児とその保護者を対象に、子育てサロンを開いて、日頃から顔の見える関係を築き、何かあったときに相談しやすい環境づくりも行っています。

「この地域で子育てができて幸せだった。」と言われるよう、日々活動に取り組んでいます。育児のお悩みなど、一人で抱え込まずに是非、私たちにお声がけください。

地域住民の皆様にお願ひがあります。

私たちは地域に密着した活動を通じて、児童虐待の予防にもつなげたいと願っております。

どんなに些細な事でも結構ですので、お近くの主任児童委員や民生委員・児童委員にご連絡ください。

●問い合わせ先 福島市役所地域福祉課 ☎525-3760

1 2 主任児童委員の方にお話を伺いました。

昨日、あんなに機嫌がよかった赤ちゃんが、今日はどんなにあやしても泣き止まない。

こういったことはよくあることです。こんな時、お母さんの方がパニックになって泣きたくなくなってしまいます。

身近に相談できる人がいたら、お母さんはどんなに気持ちが楽になることでしょうか。

私たち主任児童委員は、お母さん方に寄り添いお話をお聞きします。

たったそれだけで、声が明るくなって笑顔になられたお母さんに、私は何人もお会いしてきました。

平成29年12月に全国民生委員児童委員連合会によって策定された、「児童委員制度創設70周年 全国児童委員活動強化推進方策2017 ～子どもたちの笑顔のために～」にも示されていますが、私たち児童委員、主任児童委員自らが「身近なおとな」となり、それを地域住民に広げ仲間を増やしていくことが、地域における「子育て応援団」を増やしていくこととなります。

子どもたちは地域の「宝」です。

地域の皆様と連携して、子どもたちを守り育てていけたらと願ひながら、日々の活動を続けています。

福島市民生児童委員協議会 主任児童委員連絡会
会長 古関 久美子

●問い合わせ先 福島市役所地域福祉課 ☎525-3760

13 信陵地区のラジオ体操

信陵地区

【活動名：信陵ラジオ体操朝の会】

地元住民の健康づくりや、コミュニケーションづくりのため、信陵支所から駐車場使用の許可をいただき、回覧板で活動目的を地区住民に周知しました。現在の健康ブームにのって参加者も増え続けており、現在では会員が40名になりました。

ラジオ体操は、健康づくりのためだけではなくコミュニケーションも取れ、心を健やかにする効果があります。それがラジオ体操の醍醐味であり、一種の社会貢献でもあると考えます。健康づくりのほか、地域における交流・情報交換の場・更には安否確認にもつながります。

参加者からは「ラジオ体操が生活の一部になっているので、ラジオ体操をしないと1日が物足りない。」とか、別の参加者からは「当初足が痛く歩くのも立つのも座るのも辛かったが、諦めることなく続けていたら、以前より長い距離を歩くことができ元気な身体になった。」と話す人もいました。

ラジオ体操を通じて健康づくりと地域づくりに取り組んでいます。



●情報提供 信陵地域包括支援センター ☎558-7867

14 笹谷小学校生徒下校時の安全パトロール

信陵地区

小学生に対する交通事故の防止と犯罪の予防を目的として、生徒の下校時における安全パトロールを行っています。平日に地元の安全パトロール隊員数名が、笹谷小学校の東側約300メートルに位置する信号機の設置してある交差点において、子供への見守り活動を行っています。

生徒の下校時における見守り活動のほか、パトロール隊同士での見守り、安否確認にもつながっています。久しぶりにパトロール隊の顔を見た際「このごろ見なかったけど、どうかしたのかい？ 具合でも悪かったんじゃないでしょうか？」などと声をかけ合っています。

また、交差点で見守り活動をする際、小学生からの大きな挨拶が安全パトロール隊としてのやりがいにもつながっています。

安全パトロール隊を11年行っている地元町内会の役員は「うちの孫が小学校に入学したのをきっかけにこのパトロール隊をやるようになった。地域の安全のために今後も続けて行きたい。」と話していました。



子どもたちの安全を守ります。
子どもたちの大きなあいさが生きがいです。

●情報提供 信陵地域包括支援センター ☎558-7867

15 ひとりの困りごとは我がこと！地域での支え合い活動

【活動名：慶河苑町内会高齢部】

岡部地区

町会内の高齢者を「みんなで助け合う」ことを目標に様々な行事や活動に取り組んでいます。町内で孤独死が続き「このままではいけない」と発足しました。65歳以上の高齢者は自動的にメンバーに取り込むことで、町内の高齢者を「誰ひとりとしてとりこぼさない」支援を目指しています。

新年会・花見会・忘年会等の行事やサロン、体操・スポーツの会等の健康づくり、地域の行事への協力等の活動をしています。特に昨年度からはメンバー同士での買物、掃除、除草、除雪等の生活支援ボランティア活動を行っています。ご近所同士の支え合い、見守り活動になると共に、活動メンバーのやりがい・健康づくりになっています。

閉じこもりがちな方への声掛け・かかわりをする仕組みや、若い方へ活動を引き継ぐ方法も工夫されています。

メンバー同士で買い物、除草などを行っています。



●情報提供 東部地域包括支援センター ☎536-5001

16 コロナに負けず明るい笑顔

【活動名：福ろう会(スマイルサロン)】

信夫地区

気の合う仲間が集まり始まったお茶のみ会です。おしゃべりを楽しみながら趣味を深める会になっています。

ヨガをやったり、パッチワークを作ったり、様々な活動をしています。パッチワークではオーストラリアなど海外の方との交流も！愚痴をこぼすことで心の支えになったり、健康や地域の話の情報交換、共有の場としても大切な集いの場です。その中でもこの福ろう会は手の温もりを感じられるように手縫いにこだわったパッチワークのグループです。

手作りのお菓子や漬物をつまみながら、話に花が咲き、笑顔が絶えません。コロナ禍ではありますが、密にならないよう少人数に分散して開催し、マスクや消毒なども徹底して行なっています。



ヨガをしたりパッチワークを作ったり、様々な活動を行っています。

●情報提供 信夫地域包括支援センター ☎593-0151

17 地域の情報を掘り起こし、共有する

【活動名：土船かわら版の発行】

吾妻地区

土船区は福島市の中心部から約10km・車で30分の距離にあります。果樹園が多い地域ですが、市内で働く社員も多くなっているようです（農家の継承問題にも関連しています）。

農家さん同士は助け合いも多く、日頃から地域に密着した情報交換も出来ますが、日中は地域を離れ、お子さんの学校関係でのつながりが切れると、そのまま地域とのつながりも切れてしまう方も多いようです。

そこで、地域の方に届けたい情報を自分たちで発信することにしました。

福島地域福祉ネットワーク会議の参加団体紹介も含め、見開き4ページの「土船かわら版」を年4回発行しています。

地域にお住まいの方に編集委員になってもらい、季節の話題や地域活動団体を紹介する記事を集めて頂きます。簡易水道の管理、ももりん健康体操、環境保全活動、地域の歴史や文化財など、多岐に亘る情報を全180戸に配布。

「忘れていたこと、改めて分かったことがある」と、ご好評を頂いています。



地域の方と地域の情報発信しています。

●情報提供 福島地域福祉ネットワーク会議 ☎593-1022 (社会福祉法人青葉学園内)

18 高齢者のこんな異変に気付いたら・・・

中央・清水地区

あなたの身の回りにいる高齢者の異変に「あれ？おかしいな？」と気づいたら、地域包括支援センターへ！

わかりやすい絵で高齢者の異変を見逃さないためのチラシを作成・配布してお知らせしています。

ちょっとした気づきで高齢者が地域で安心して暮らし続けるためのサポートになるので、ぜひチラシを活用してください。

高齢者の異変についてわかりやすいチラシを作成しました。

新しい生活様式で
心配される高齢者に忍び寄るコロナ2次被害

高齢者のこんな異変に気付いたら...

「あれ？おかしいな？」という小さな気づきを見逃さず、早めのご連絡が地域で安心して暮らし続けるためのサポートになります！

あなたの周りに
気がかりな高齢者は
いませんか？

○郵便物がたまっている	○庭の手入れがされていない ○洗濯物が干されなくなった
○ふさぎ込んで元気がない ○痩せてきた気がする	○ここ数日、姿を見ていない気がする
○見慣れない人が出入りするようになった	○同じことを何度も言う ○話がかみ合わない
○あざやケガがある ○理由を話したがらない ○大声が聞こえる	○部屋が乱雑、衣類の汚れ、におい、髪がボサボサ

○ご連絡を受けた地域包括支援センターは、必ず対象者の状況を確認します。
○ご本人の状況や希望に応じて必要な各種サービス等の支援につなげます。
○ご本人の支援が最優先のため、結果的に思い過ごしてあったとしてもかまいません。
○ご連絡により不利益な扱いを受けることはなく、相談者、ご本人の個人情報を守ります。

●情報提供 中央西包括支援センター ☎563-4880
清水東包括支援センター ☎558-7300